唐崎のきずな

No.90 カトリック唐崎教会
2023 年 10 月 1 日

「Yes！ Korea。（はい！一つの韓国です。）」

ソ・ウォンハ神父

2016年、ポーランドでWYD(ワールドユースデイ)に参加したことがありました。同じ信仰に基づいていろいろな国から青年達が集まりました。若かったこともあり、小さい教区から来た私でも「熱意は世界の誰にも負けない！」というつもりで初対面の方にも気合いを入れて元気に挨拶をしていました。

ところが、ヨーロッパ系の青年達から聞かれる共通した質問は私を困らせました。「Oh？Korea！North？(おっ？コリア？北？)」 この質問を受ける度に大声で「No! South!（違う！南！)」と答えました。幼稚な答えでしたが、当時は自分が北朝鮮から来た人だと思われるのが、嫌でした。若い頃の自分の中では、北朝鮮は戦犯国で、人権と信仰の自由がない悲惨な国だという漠然とした思いがありました。そういったことから、他の国から来た青年達にかわいそうだと思われたくない！と思い込んで、「No! South!（違う！南！)」と叫んでいたのかもしれません。

WYDに参加していたいろいろな青年達と分かち合いをする中で、自分の心が狭かったことを気付くことができました。彼らは不思議だから、かわいそうだから北朝鮮に興味を持っているわけではありませんでした。青年達は全世界で唯一、北と南に別れている国として、信仰を持っている人としてどのように乗り越えるのか、どんな努力をしているのかに興味を持っていました。しかし、義務としての軍人だったとき以来、何の興味も、努力もしていなかった私は何も答えられず「分からない」としか答えられませんでした。そんな私の恥ずかしい答えにも青年達は共に祈り、平和を願ってくれました。

平和旬間を共に過ごしながら、私はどんな努力をすれば良いのか振り返ってみました。たとえ目の前でミサイルや爆音は無くても、知らずに誰かを無関心と言う闇の向うに追い出していたと思います。

平和のためにまず行うこと、それは大げさなことから始まることではありません。まずは、自分との和解を先に進める必要がありました。神様によって造られた、大切な存在である誰かを「嫌だ」、「悪人だ」、「関係ない」と決めて追い出していることはありませんか？

無関心の闇に追い込んだ自分との和解を行いましょう。心の壁を取り除いてから、神様に心を込めて平和を求める祈りを捧げましょう。

いつか、このように叫びたいです。「Yes！ Korea。（はい！一つの韓国です。）」